

平成29年度文教厚生常任委員会管外視察報告書

- 視察年月日 平成29年10月17日（火）～18日（水）
- 目的 本委員会が所管する事項に関する先進地の取組みの調査及び研修
- 視察先 (1) 長野県塩尻市
(2) 岐阜県多治見市
- 視察者 橋本委員長、由利副委員長、櫻井委員、中野委員、藤田委員、松本委員、
行待委員 (随員) 議会総務課 藤田主任 以上8名

【長野県塩尻市】

対 応 者：議会事務局長	竹 村 伸 一 氏
議会事務局議事調査係長	藤 間 みどり 氏
(塩尻市市民交流センター)	
市民活動支援担当課長	山 崎 浩 明 氏
交流支援課主査	小 林 光 浩 氏
塩尻市立図書館副館長	上 條 史 生 氏

- 1 視察日時 平成29年10月17日（火）午後2時～4時
- 2 視察内容 市民交流センター「えんぱーく」について
- 3 塩尻市の概況

塩尻市は、長野県のほぼ中央に位置し、人口は67,006人（2017年4月1日現在）である。

基幹産業は製造業で、2014年の工業統計調査では製造品出荷額が長野県下19市中1位となっている。都市近郊型の農業が営まれレタスやブドウの栽培が盛んで、10のワイナリーが市内に点在している。2005年に木曽郡檜川村と合併し、木曽路の一部が加わったことにより、宿場の面影を残す奈良井宿や木曽漆器の産地である木曽平沢地区は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

4 塩尻市市民交流センター

(1) 塩尻市市民交流センター事業概要

- ① 事業の名称：大門中央道埋地区第一種市街地再開発事業
- ② 総事業費：約51.6億円
- ③ 市の購入費：土地／約5.4億円 建物／約30.3億円

えんぱーくの建設は、「大門中央通り地区第一種市街地再開発組合」が行い、その床の約9割を市が購入して市民交流センターを整備している。

(2) 塩尻市市民交流センター基本コンセプト

だれもが気軽に立ち寄れる施設として、役立つ情報を提供し、市民の意欲と活動を応援している。知恵と意欲を持つ人が集い、活発に活動・交流することで、新たな価値が創出され、



さらに多くの人をひきつける場へと進化することをコンセプトとしている。塩尻市市民交流センターは、「図書館」「子育て支援・青少年交流」「シニア活動支援」「ビジネス支援」「市民活動支援」の5つの重点分野を設定している。この5つの重点分野が個々に機能を発揮するとともに、各分野が有機的に連携し、相乗効果を生み出す融合事業も展開している。施設は地下1階、地上5階建てで、面積は約12,000㎡。4つの大きな吹き抜けを通じて自然の光が降りそそぎ、広場のような楽しい空間が広がっている。「壁柱」と呼ばれる薄い板状の壁が建物を支え、人工の森の中にいるような雰囲気になる。建物は三方がガラスで、どこにいても開放的な気分を味わうことができ、周辺から中の活動を見ることが出来る。建物全体が公園のように親しみやすく、様々な空間体験を通して、誰もがわくわくわくする施設を目指している。



5 塩尻立図書館

(1) 図書館の概要

塩尻市立図書館は、1971年に開館した。2度の移転を経て、2010年7月に市民交流センターの主要施設として現在の図書館（本館）がオープンしている。図書館は、本館と8つの分館から構成されている。図書館の延べ床面積は約3,300㎡で、地下に閉架書庫（23万5千冊収容）、1階、2階が開架書架で、約20万冊（一般書16万冊、児童書4万冊）を配架している。開架の収納能力は約26万冊である。

(2) 図書館の運営の基本的方針

市民交流センターは、基本コンセプトを「知恵の交流を通じた人づくりの場」とし、知恵と意欲を持つ人が集い、活発に活動・交流することで新たな価値が創造され、さらに多くの人をひきつける場へと進化する知恵の好循環を目指している。基本コンセプトに基づき、図書館の目指すべき方向として、①役立つ情報を提供する図書館 ②意欲と活動を応援する図書館 ③進化する図書館を挙げている。

(3) 図書館運営体制

塩尻市立図書館サービス計画で定めたサービスを実現していくため、通常の業務体制とは別にサービス事業チームを編成し、検討、実践に取り組んでいる。現在活動中のチームは、多文化サービス、シニア活動支援サービス、市民活動支援、青少年交流、子育て応援、医療健康情報提供、図書館利用に障がいがある方へのサービス、ビジネス支援となっている。



【整理された閉架書庫】

(4) 図書館の特徴

- ① 配架・・・書架の高さを高く設定し、より多くの本と利用者が出合えるように工夫している。
- ② 混配・・・関連する資料を分類区分にとらわれず配架している。
- ③ 複本・・・原則、複本を所蔵しない。予約件数が多い場合は追加で購入する。
- ④ 3Dプリンターはビジネス支援として導入。最新のものづくりに興味がある方が学び、交流できるように3Dプリンターの利用サービスを行っている。



【一度に15冊処理できるセルフ貸出機】

(5) その他の特徴的な取り組み

- ① ビジネス情報相談会・・・図書館の持つ情報収集機能を活かし、長野県よろず拠点が事業化に向けた相談を担当している。
- ② 贈り帯・・・塩尻書店組合との共同企画。子どもに本をプレゼントする企画で、本を贈る文化をつくることを目指している。
- ③ PTA親子文庫・・・家庭の中で本を仲立ちとして親子のふれあいを深め、豊かな心の成長を促すことを目指している。

【入園・入学のお祝いに、贈り帯を】



(6) 基本情報

床面積（本館）	3,285 m ²
職員数（本館・2017年度）	37人（内、正規職員7人）
図書購入数（2017年度）	30,000千円
蔵書数（2016年度末）	467,703冊

駐車場	49 台（平面）＋市営駐車場
-----	----------------

（７）利用情報

登録者数（2016 年度末）	38,514 人
開架冊数（本館）	約 210,000 冊
内 児童書	約 40,000 冊
貸出冊数（2016 年度末）	682,428 冊
利用者数（2016 年度末）	128,297 人
レファレンス件数（2016 年度末）	11,443 件

（８）資料情報

	2004 年度末	2010 年度末	2016 年度末
一般書	99,646	183,860	267,641
郷土資料	8,016	15,077	22,366
児童書	46,917	67,159	89,972
視聴覚資料	4,890	9,991	12,364
雑誌	85 誌	396 誌	473 誌

6 『信州しおじり本の寺子屋』について

「『本』の可能性を考えたい」をテーマに始まった『信州しおじり寺子屋』は活字離れと言われる昨今の状況に対して著者、出版社、書店と図書館が連携することにより本の魅力を発信する取り組みで塩尻市立図書館の目玉企画となっている。

子ども本の寺子屋	「本の魅力を届けたい」をテーマに 2015 年に開校した。 「めざせ！図書館マスター」（2016 年～）は、6 か月にわたり本や司書について学ぶ講座を中心に構成している。
地域文化サロン	「地域文化に光を当てる」ことを目的に 2017 年から開催を始めた。図書館の所蔵する地域資料からテーマを選定し開催する。

7 所 見

塩尻市市民交流センターは、政策課題を解決するために行う事業を実施する拠点となることに加えて、塩尻市のアイデンティティ（個性・塩尻さ）を先導し、中心市街地活性化の拠点と

なることが期待されている。このため、市民ニーズに応えることや先駆的な事業を展開することによって、市の内外から多くの利用者が訪れるような魅力やシンボル性を備えている。このようなことを踏まえ、基本コンセプトを『知恵の交流を通じた人づくりの場』と定め、「情報を扱う基本能力」と「豊かな心」を市民自らが開花させ、知恵を生かすことに積極的な人材が集い、交流することを通じて新たな価値が創出される場を目指している。塩尻市の図書館はこの基本的なコンセプトの機能として位置づけられている。特に印象的であったことは、プロポーザルでの公募型入札でありながら、市民のニーズや声が十分に活かされ、チャリティーコンサートなど十分な交流スペースとして活用されるなど市民のいこいの場となっている。

また、地域のコミュニティー集約など大きなビジョンがあり、楽しい施設、人が集まりやすい施設となっている。特に、子育て支援との併設は大変有効であると感じた。

図書館の基本方針は、「塩尻市図書館サービス計画」に基づき、市民の自主的な「学び」を保証する機関として図書・記録及び郷土資料や行政資料、その他必要な資料を収集、整理、保存し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資することを基本の方針にしている。

また、常に新しい視点に立ち、より充実した図書館サービスを通じて様々な情報を市民に提供し、幼児から高齢者まで幅広い市民の暮らしや仕事に役立つ施設としての機能も高めている。

本市には図書館2館、図書室4室の施設があるが、老朽化や設置場所、館内の読書スペースが狭いなど市民の利用しやすい図書館としての役割を果たせていない施設もある。近年の公立図書館は、本の貸し借りする機能の他に、多くの市民が集える場所としての複合的な機能を有し、市民の学びと育ち、教育の広がりを支える施設として、まちのシンボル、市民の誇りとなっているものが増えてきている。

都市施設整備の具体化の必要性にも鑑み、将来の図書館のあるべき姿も踏まえ、市立図書館の整備を早急にすべきであることをこの視察からさらに強く感じた。市の積極的な姿勢に期待したい。

【岐阜県多治見市】

対 応 者：議会事務局 加 藤 文 恵 氏

環境文化部文化スポーツ課 三 宅 かおり 氏

(公益財団法人 多治見市文化振興事業団)

常務理事兼事務局長 青 山 崇 氏

多治見市図書館長 山 口 晴 路 氏

多治見図書館 加 藤 久 佳 氏

1 視察日時 平成29年10月18日(水) 午前9時30分～12時00分

2 視察内容 多治見市図書館について

3 多治見市の概況

多治見市は、岐阜県の南南東にあたり、名古屋市から北東に36km、JR中央本線、太多線など東濃の交通拠点であり、国道19号線、248号線、さらに市北部には中央自動車道が東西に走り、東濃地方の産業、経済、文化の中心地であるとともに中部経済圏の一翼を担う重要な位置にある。

美濃地方における陶磁器の集積地として古より繁栄してきた。しかしながら、競合製品の進出や輸入品の増加によって、近年その生産を落としており対策が急がれている。また、多治見は陶磁器の生産地というよりは商社の集まる集積地であるため、近隣の土岐市や瑞浪市に比べると少ないものの、いくつかの生産地(市ノ倉・高田・滝呂)を要している。桃山茶陶時代を経て江戸時代からは、陶磁器産業の発展がめざましく、独自の陶都が形成されてきた。昭和30年代以降は、名古屋市のベッドタウン化が進んでいる。明治22年に町制施行、昭和15年に市制施行、隣接町村を合併し、平成18年には笠原町と合併して現在に至っている。

4 多治見市図書館

(1) 図書館の概要

多治見市図書館は本館、子ども情報センター、笠原分館の3施設を指定管理者である公益財団法人多治見市文化振興事業団が運営している。5年ごとのプロポーザルで今年は3年目であり、2020年までの指定管理を行う。指定管理料は5年間で6億7000万円である。指定管理のメリットとして、職員の専門性を高め、より市民のニーズに合った取り組みができるという点である。そういった中で、平成21年には、「子どもの読書活動優秀実践図書館」として文部科学大臣表彰受賞、平成27年には、「Library of the Year 2015」大賞を受賞されている。

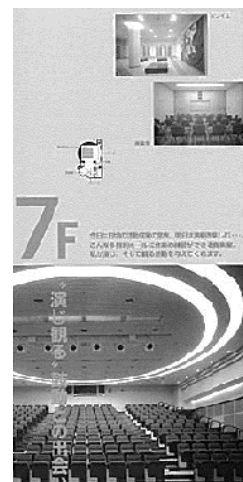
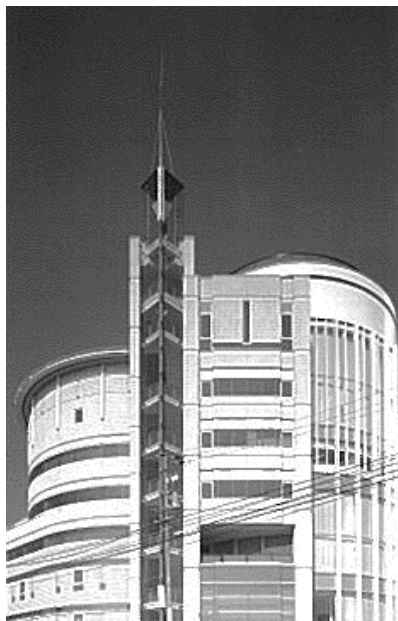
(2) 施設

多治見市図書館本館である「まなびパークたじみ」は平成9年に5階建ての本館がオープン。総工費48億円で建設した。主な財源は、市債、基金、一般財源である。建設に当たって、市民の意見を聞き、それぞれの声を集約し、庁内の検討委員会をはじめ、各種団



体との協議を重ねてこられている。

1階は、市民が誰もが利用しやすく集える場としてオープンギャラリーとなっている。
2・3階は、明るく開放的な図書館とし、本との出会いを大切にしている様々な工夫がされている。4階は、団体活動の場や学生が本を持ち出して学習することができる空間がある。最上階には多目的ホールもあり、各種団体の活動の発表の場や音楽コンサート、講演会等も行われている。この他にはバリアフリー化、乳幼児向けのサービスもきめ細かく行っており、利用環境整備への対応もしている。よって、市民の幅広い年齢層の方でも楽しめる施設となっている。



① 本館

開館時間	火曜日～金曜日	午前10:00～午後8:00
	土・日・祝日	午前10:00～午後6:00

休館日	月曜日（祝日は開館） 図書整理日（毎月第3木曜日。その日が休日の場合、その前日） 年末年始 12月28日～1月4日 特別休館日（広報で案内）
敷地面積	3526.21㎡
建築面積	1196.30㎡
延床面積	9270.20㎡ うち図書館分 3307.08㎡ 地下1階・2階（閉架書庫） 528.02㎡ 1階（作業室） 99.77㎡ 2階（児童・文学閲覧室） 1136.38㎡ 3階（一般・郷土閲覧室） 1188.95㎡ 4階（学習コーナーなど） 353.96㎡
構 造	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造

② 子ども情報センター

開館時間	火曜日～金曜日 午前10:00～午後8:00 土・日・祝日 午前10:00～午後6:00
休館日	月曜日（祝日は開館） 図書整理日（毎月第3木曜日。その日が休日の場合、その前日） 年末年始 12月28日～1月4日
敷地面積	817.88㎡
延床面積	590.20㎡ 1階（閲覧室）351.32㎡ 2階（集会室等） 221.93㎡
構 造	鉄筋コンクリート造2階建、一部鉄骨造
開 設	昭和63年4月9日

③ 職員構成

※司書資格保有者・・・23名

本館		子ども情報センター		笠原分館	
館長	1	所長	1	館長	1
常勤職員	2	常勤職員	0	常勤職員	0
短時間職員	9	短時間職員	1	短時間職員	1
契約職員	17	契約職員	5	契約職員	3
計	30	計	7	計	5

常勤職員・・・0名、短時間職員・・・1名、契約職員・・・3名、郷土資料室4名

④ 利用統計

人口	112,145人 (平成29年4月1日現在)		全館登録人数	79,053人
			市内登録人数	60,290人
開館 日数	本館	296日	全館貸出点数	787,284点
	子ども情報センター	296日	全館貸出人数	195,069人
	笠原分館	296日	全館資料点数	492,818点

(3) 各種サービスについて

① 貸 出

貸出点数：10点以内（AV資料は2点以内）、貸出期間：2週間、「利用者カード」は本館、子ども情報センター、笠原分館で共通に利用できる。

② 予約・リクエスト

在架及び貸出中の所蔵資料の予約が可能。カウンターでの受付の他、管内利用者検索機（OPAC）、図書館HP、スマートフォンからも予約が可能である。また、所蔵していない資料については相互貸借または購入により資料提供を行っている。

③ 利用環境

Wi-Fi（無線LAN）の設置、各階にカート及びセルフかごを配備、図書除菌機の設置、点字によるトイレ表示、トイレの案内板を設置、ファミリートイレ（各階に設置）、サポートチェアの設置など。

④ レファレンス・サービス

利用者からの質問・調査事項にたいして参考文献や資料の紹介や提供を行っている。多治見の伝統産業である陶磁器関連などの調査依頼も増加している。郷土資料に関するレファレンスは郷土資料室で対応している。

⑤ 乳幼児向けサービス

「安心して子育てできる図書館」を重要視している。

「0歳から登録ができる図書館」を打ち出しているのは、子どもたちにもたくさんの本に触れてほしいという願いが込められている。そして、館内には育児に関する棚を設置することで、乳幼児からの子連れの保護者の来館を伸ばしている。そのため、2階を中心として、子ども向けスペース、授乳スペース、ベビーベッド、オムツ交換シート（各階女性トイレ及びファミリートイレ）、子ども向けセルフかごが配備されている。また、児童コーナーやお話の部屋（本館）の設置し、読み聞かせ、紙芝居、エプロンシアターなどを実施している。



【子ども目線の書庫、その奥には
広々とした読み聞かせスペース】

⑥ おはなし会

本 館	第 1 ・ 3 土曜日	1 4 : 0 0 ～ 1 4 : 3 0	幼児以上
	第 2 ・ 4 木曜日	1 1 : 0 0 ～ 1 1 : 3 0	乳幼児と保護者
子ども情報センター	第 1 木曜日	1 1 : 0 0 ～ 1 1 : 3 0	未就園児
	第 3 土曜日	1 1 : 0 0 ～ 1 1 : 3 0	幼児以上
笠原分館	第 3 土曜日	1 1 : 0 0 ～ 1 2 : 0 0	未就園児から

⑦ ブックスタート

保健センターで行われる 4 か月児健診を受診する母子が対象となり、絵本 1 冊を配布、ボランティアによる絵本の読み聞かせを行っている（平成 2 8 年度参加人数 7 3 4 組）。

⑧ お母さんと赤ちゃんのためのおはなしの会

ブックスタート事業のフォローアップ事業として実施、図書館本館にて月 2 回実施している（平成 2 8 年度参加人数 3 0 8 組）。

⑨ 読み聞かせ備品貸出サービス

手作り布絵本や大型紙芝居などの貸出（平成 2 8 年度実績 3 5 件）

手作り布絵本 1 7 タイトル（大型紙芝居 7 タイトル、大型紙芝居用舞台 1 台、紙芝居用舞台 2 台）

⑩ 郷土資料サービス

県内・市内別に関連資料を集めている。4 階にある郷土資料室では、郷土資料及び関連資料の収集・保存、郷土史に関するレファレンスへの対応、調査研究を行っている。中部日本新聞県内版は（昭和 1 9 年～）永年保存している。

⑪ 特殊資料コーナー

ア 陶磁器関連の図録・研究所の重点収集

美濃焼のまちの図書館として、研究者・生産者・陶芸家・陶芸を学ぶ学生・消費者・愛好家を対象にした資料を収集、独自の分類を設けている。



【陶磁器資料コレクションコーナー】

イ ブックナビ

市内の文庫で構成されている「多治見地域文庫連絡会」が選書したおすすめの本を集めた書架を設定している。

ウ 特別コレクション「水野千鶴子文庫（平成 1 1 年 3 月開設）」

多治見に存在され、長年県内の高校で教師を勤められた水野氏が亡くなられた際、寄付を元に収集された資料。

1, 9 1 8 冊と加藤助三郎家文書から構成されている。

⑫ 郷土資料室の業務

ア 収集・整理

古文書等歴史資料収集整理は、市内旧家や陶磁器組合等の団体に残されていた歴史資料を収集し、整理作業を行い、市民や研究者が利用できるよう目録一覧を作成している。聞き取り調査を行い、市内在住の高齢者や陶磁器製造販売関係者に、昔の多治見の暮らしや焼物産業について話を伺い、記録をしている。



【昔の多治見市の写真資料をパネル化・貸出】

イ 管理・保存

保存環境については、閉架収蔵庫内の温湿度を適切に保つためにデータロガーを設置している。資料の保護は、資料の虫菌害対策として業者委託により所蔵資料の一部を燻蒸している。

ウ 所蔵資料の貸出及び提供

一般利用者や研究者、他機関以来の古文書等解読調査、共同作業を行っている。多治見レトロ写真セットの貸出をし、郷土資料室所蔵の写真資料をパネル化し、テーマごとのセットにして、高齢者福祉施設等に貸し出しを行っている。

⑬ 障がい者・高齢者サービス

館内には車椅子を設置、2階開架閲覧室に「大活字本」「点字本」のコーナーを設置している。対面読書室、録音室を設置し、ボランティア団体の協力を得て視聴覚障がい者へのサービスを実施している。また、カウンターにはコミュニケーションボードを設置している。

視聴覚障がい者と肢体不自由者を対象に録音図書資料の貸出を実施しており、資料は本館で所蔵する284タイトルのほか、リクエストによる他施設所蔵資料の取り寄せも行っている。平成21年度より、24時間テレビチャリティー委員会より、障がい者サービス用機器の贈呈を受け、DAISY図書作成用機器一式、拡大読書機、自動活字読み上げ機も設置した。

⑭ 英語多読コーナーの設置

やさしい本から読み進めることで、単語に触れる量を増やしていく学習方法である。少しずつ読むレベルを上げ、楽しみながら読み進めていくことで、最終的には大人向けのペーパーバックや英字新聞を読めるレベルに達することを目指している。



【英語多読コーナー】
(蔵書 43 シリーズ 1,914 冊)



付録C D 764 点 貸出実績 20,196 点)

⑮ 医療情報コーナー・闘病記文庫

岐阜県多治見病院患者図書室「ぬくたーらいぶらりー」と連携して、市民の健康生活に役立つ本や闘病記を集めた書架やパンフレットを置いたコーナーを設けている。利用者の健康意識を高め、生涯を通して心身の健康づくりをサポートすることを目指している。



【医療情報コーナー及び闘病記文庫】

⑯ 学校への支援・連携

ア アウトリーチ活動

教師・保護者対象の読み聞かせ講座の実施、ブックトーク、中学・高校の職業選択講座への講師派遣、小中学校への出張読み聞かせ、保・幼・小学校ボランティアへの読み聞かせ講師の派遣を行っている。小中学校図書館主任連絡会議・子ども読書推進会議にも出席し、学校支援を実施している。また、高校生が子どもたちに読み聞かせを行っている。夏休みの時期には小学生の宿題を一緒に行う取り組みも行っている。

イ 団体貸出

授業で使用する調べ学習用資料の貸出を行っている。選書の相談や県図書館のセット文庫の取次も実施している。（平成28年度団体貸出実績 2, 142点／75校）

（4） 広報活動

図書館だよりの発行（毎月1回500部）、子ども情報センター通信の発行（年6回 全市回覧）、子ども夢ネットの発行（年3回）、FM P i P i「多治見タイムトラベル」出演

5 所 見

多治見市図書館、子供情報センターは、「図書館で情報に出会い、仲間と出会う」人とひと、人と情報をつなぐ場を提供することを目指している。多機能な施設で、若年層から高齢者まで幅広い世代に対応している。

本市に於いては、若年層の図書館離れが課題であるが、多治見市では、高校生ボランティアが小中学生の宿題の手伝いや読み聞かせ等をする活動は、高校生を呼び込むと共に、若年層の図書館離れ対策として機能している。また、地域文化に根ざした陶磁器資料コレクションの展示は、文化財だけでなく、地域のビジネスを支援するといった重要な課題にも取り組まれており、研究者、生産者、陶芸家、陶芸を学ぶ学生、消費者、愛好家と言った様々な視点から、独自の分類を設け展示がされている。本市においても郷土の産業に関する文献などの保存、展示は必要であると考え。郷土資料の収集では古い映像ライブラリーとして町の歴史が保存され、多治見市の写真資料を展示パネルとして高齢者施設等に貸出をされて、回覧療法として活用されている。このような取り組みは本市でも取り組むべきである。

医療情報コーナー・闘病記文庫では岐阜県多治見病院「ぬくたーらいぶらりー」や市内医療機関と連携し、市民の健康生活に役立つ本を集めた書架を設置し、職員に聞かなくても探している本にたどり着けるなど、個人の心情にも配慮する工夫をされている。

多治見市の図書館では、特徴的な機能や多様なサービスをもつ施設として市民の生涯学習を支え、多治見市の魅力や地域の特性を内外に伝える図書館として運営されている。本市においても、市民に親しまれる図書館整備は必要不可欠である。本市は図書館2館・図書室4室を有しているが、書架の配置や読書空間、多目的に使える場所などの館内スペースの課題や施設の老朽化など、様々な問題を抱えており、施設の機能を向上させることは、喫緊の課題である。財政が厳しい中で図書館整備には多額の費用が必要なことは十分に理解できるが、様々な機能を持つ複合施設の検討を市民のコンセンサスを得ながら進めていくことの必要性をこの視察から強く感じた。